

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.143

< 目 次 >

【ご連絡】

- ★ 令和3年度 定期総会..... 1

【ご案内】

- ★ 令和3年度 第1回幹事会..... 1

【事務局より】

- ★ 令和3年4月 事務局連絡会議報告..... 2

【会員の動きから】

- ★ 会員の活躍..... 2

【リレーエッセイ】

- ★ 活かすために緑の質にこだわること..... 3

- ★ 去年は人類が最も歩かなかった一年でした..... 4

- ★ 新舞子海岸のホッキガイ..... 5

【ご連絡】

令和3年度 定期総会について

令和3年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、議案書を会員の皆様へ郵送にてお届けし、質疑等はメールやFAX等でお受けすることになりました。詳細につきましては、総会議案書発送時にお知らせいたします。

【ご案内】

令和3年度 第1回幹事会のご案内

令和3年度の第1回幹事会を下記のとおり開催します。
幹事の皆様の積極的なご出席をお願いします。

記

1. 日時 令和3年5月15日(土) 14:00～
2. 場所 湯ノ岳山荘 研修室
(いわき市常磐藤原町湯ノ岳2-1)
3. 内容 (1) 令和2年度事業報告および会計報告



湯の岳山荘入り口

(2) 令和3年度事業計画案および予算案

(3) その他

4. 問合せ先 いわき地域環境科学会事務局

担当：山田 (TEL：0246-46-0800, E-mail:yamada@fukushima-nct.ac.jp)

【報告】 令和3年度4月事務局連絡会議 開催報告

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、当会の各種活動を当面の間自粛してまいりました。事務局会議につきましても開催を見合わせておりましたが、去る令和3年4月10日(土)13時30分から、いわき市文化センター・中会議室(2)におきまして、令和3年年度4月の事務局会議が開催されました。当日は役員・事務局員13名が出席しました。

会議では、会誌 EQUAL 34号の編集進捗状況の報告があったほか、定期総会・幹事会を含めた今後の会の活動のあり方、令和3年度の事業計画などについて話し合われました。



挨拶する原田会長



令和3年度4月事務局連絡会議



【会員の動きから】 一当会の会員がそれぞれの分野で活躍しています

該当会員	時期・場所	主催所管	内容
原田正光 松崎和敬	R3.3.19. いわき市役所	いわき市 環境企画課	市環境緑化審議会に出席し、「第二次いわき市緑の基本計画」について審議しました。
原田正光	R3.3.26 いわき市役所	いわき市 環境企画課	「第二次いわき市緑の基本計画」の市長答申を行いました。

【リレーエッセイ】



活かすためにみどりの質にこだわること

原田正光 (会員)

現在編集中の EQUAL 第 34 号の会員の広場で、「いわき市環境基本計画 (第三次)」の策定に関わっての感想記事を書きました。市環境審議会を代表して本計画案を市長に答申したのが本年 2 月でしたが、翌 3 月には市環境緑化審議会を代表して「第二次いわき市緑の基本計画」の市長答申を行いました。このリレーエッセイは、「いわき市緑の基本計画 (第二次)」の策定に関わっての感想です。

平成 13 年 2 月に策定された「いわき市緑の基本計画」は、基本理念として「豊かな水と緑と調和する都市・いわき」を掲げて、これまで約 20 年間、主に都市計画区域を対象として、緑を守り、創り、結び、育てる基本方針のもと種々の施策が展開されてきました。しかし、この間、東日本大震災からの復興に伴う新たな都市公園や防災緑地の整備、都市緑地法の改正に伴う老朽化した都市公園の管理方針や都市農地の扱いの変化、都市計画マスタープランや立地適正化計画の策定に伴う都市構造の変化など、いわき市における緑を取り巻く環境が変化してきました。そこで今回、このような社会的動向や法令等の変化に対応するため、緑の基本計画の改定作業が行われたわけです。

策定した「第二次いわき市緑の基本計画」は、地域ごとの状況に合わせたみどりの配置や適正な維持管理といった、みどりの量よりも質に視点を与えています。そして、これらの課題に対して、多様な人と連携して質の高いみどりを創るために、「煌めく緑を共創する都市・いわき」を基本理念に掲げています。この計画から私が受けた印象などについて紹介します。

一番大きな印象は、「緑」から「みどり」への表記です。計画では単に緑 (植物) だけに注目するのではなく、植物を含めた一定の空間を対象としています。河川や湖沼・湿地、沿岸域といった水辺空間、水田や畑地などの農地空間なども含みます。土壌や水、大気、動物 (人間も含む) との相互作用が起こる、いわゆる生態系としての扱いになります。ここでは、みどりの量の問題だけでなく、質の問題も考えていかないと健全な物質循環が起こらなくなってしまいます。大気や土や水の移動の制御や浄化、動物の繁殖や生活空間、等々に支障が出てしまいます。そのような点で、みどりの質にこだわることはとても大事なことで、本計画でもそこに着目していただけたのはとてもありがたかったです。今後、みどりの質 (みどりの機能) を多くの市民 (とくにこれからの子供たち) にわかりやすく伝え、理解してもらう取組が重要になってきます。

二番目の印象は、「守る」、「創る」、「結ぶ」、「育てる」の基本方針に、「活かす」を追加したことです。活かすことで、みどりを守り、創り、結び、育てて、質の高いみどりを維持していくことにもつながります。活かす方はいろいろあると思いますが、限定的な活かし方だけでなく、いろいろとみどりの機能を取り上げて欲しいと思います。近視眼的かつ網羅的かもしれませんが、森林保水機能の低下による水害発生、竹林の拡大、湿原の大型植物繁茂に伴う希少種減少、沿岸域の磯焼け、バイオマスエネルギー等々、みどりの機能と関係しそうな問題ではないかと思います。また、取組の組織も、行政だけでなく、市民や事業者等の多様な人々の連携が求められます。さまざまな主体

が参画して、みどりの機能を踏まえながらみどりを活かす取組が繰り広げられていけば、みどり煌めくいわき実現も可能ではないでしょうか。そして、基本理念に使われている「共創」は参画する主体間の取組であることに加えて、各基本方針相互の関連も視野に入れた取組であると感じた次第です。

最後に、この計画を今後 20 年見守っていくうえで気になることが一つあります。それは、みどりの質をどのように表現していくかということです。今後、質の重要性を多くの人に理解してもらう時や、基本方針ごとの施策の展開やその評価の時には、みどりの質を客観的に表現していく必要が生じます。このような取組こそ当会が貢献できる場ではないかと勝手にこだわってしまいます。

【リレーエッセイ】



昨年は人類が最も歩かなかった一年でした

佐藤 烈 (会員)

最近テレビの CM で「昨年は人類が最も手を洗った一年でした」というフレーズを聞きました。なるほどと思いました。このように一年をワンフレーズで表現する手法は、数十ページの論文を読むのに比べ、わかりやすく多くの人に受け入れられると思います。

そこで私ならどう表現するか考えてみました。まず思い浮かべたのが「昨年は人類が最もマスクをした一年でした」です。でもこれではあまりにも直接的でなんか面白くありません。もう少し面白いものはないか考えてみました。

そこで思いついたのが「昨年は人類が最も歩かなかった一年でした」のフレーズです。このフレーズが正しいか検証してみます。

先ず現生人類がアフリカ大陸で誕生して以来エジプトを通りヨーロッパ、中東アジアから広くユーラシア大陸に広がり、アリューシャン陸橋を渡り北米大陸そして南米大陸へと広がった時代は、農耕が始まっていなかったため食料を求めて歩き回ったことは間違いのないと思います。そして定住して農耕を営むようになった時代でも定住地の周辺に出かけて食料を採集するなど、現在と比べてたくさん歩いていたと思われます。その後 4 大文明の時代、その後の中世時代、ルネサンスの時代、そして近世まで現代人に比べればたくさん歩いていたことは間違いありません。

なぜそう言い切れるかというと、歩く以外の移動手段がなかったからです。馬車があっても皆がそれに乗れるわけではありません。

そうすると人類が歩かなくなったのは、いつからなのでしょう。

それは飛躍的に移動距離を延ばせる手段を見つけてからではないかと考えることができると思います。近代になり蒸気機関が発明され鉄道が整備されました。またガソリンで走る車が造られ、そのため道路が整備されました。そして海では帆船から蒸気船、今では重油で動く原油運搬船まであります。

そのように現代は、昨年以前から実は歩かなくなっていたのです。ただ昨年はそれにもまして歩かない年でした。昨年は世界中で歩くことを禁止しました。いわゆるロックダウンです。日本でも

そこまではしなくても外出を控えるようにとのメッセージが出されました。そこで学校においてもリモート授業、職場へ通勤することも控えて在宅ワークが推奨されました。さらにこの在宅ワークは今後も働き方改革の一つの方向として後戻りはなさそうです。今後も現代人はさらに歩かない社会を目指していきそうです。

ここで一言ひねくれたことを書きます。人間は動物である。その動物である人間は今歩かなくてもよい社会を目指しています。歩かない、言い換えると動かないことを望む人間という動物。そういえばアリジゴクも餌が落ちてくるまでじっとして動かない。いや哺乳類にもいました。ありがたくない名前をつけられている木にぶら下がっているあれです。

皆さんは一言で昨年をどのような年と表現しますか。考えてみるのも面白いのではないのでしょうか。

【リレーエッセイ】



新舞子海岸のホッキガイ

平川英人 (会員)

令和2年7月17日好間四小の3~6年生までの児童と一緒に、好間川の水源地から河口までの調べを行いました。まず校門前からバスに乗って、水源地である雨降山へ向かいました。林道にバスを停めて30分間歩けるところまで山道を上りました。水源地近くではサワガニをたくさん取ることができました。水温は13.1℃と低くなっていました。サンショウウオも3尾取って行動生態をスタッフから説明しました。

三和公民館でトイレ休憩を取ってから、好間川と夏井川の合流点へ向かって、平橋で降りて、その上から観察しました。

夏井川河口に到達して、弁当を新舞子海岸でテトラ上に座って摂りました。30分間ほど休憩しましたが、その間子供たちは砂浜に漂着した生物を採集して楽しんでいました。児童の皆さんが砂浜で貝殻を拾っている姿を見ると昔の自分を思い出しました。私の場合は中学時代でもっと年齢が高かったのですが、志摩半島の砂浜で貝殻採集をしたことがありました。あの時バスに乗って一緒に採集した先輩や同級生は今何をしているのだろうかと思いを馳せました。

漂着生物の中で数が最も多かったのはホッキガイでした。生徒が全員バスに乗ってからバスの運転席の隣でホッキガイの基礎的な知見を説明しました。ホッキガイは全国的に通じる方言で、標準和名はウバガイです。その標準和名は黒くてあまり綺麗でない姿が年取った女性である「姥」に似ていることに由来しています。一方の方言であるホッキガイは漢字で書いてわかるように、北に偏って漁獲される貝である「北寄貝」によります。

北海道で最も多く漁獲されまして、茨城を南限として、北日本で漁獲されます。福島県、宮城県でも多く漁獲されています。

新舞子海岸で打ち寄せられたホッキガイは波にもまれて、白くなっていましたが、生きているものは若いうちは薄茶色で、大きくなると黒色になります。寿命は30年といわれています。

産卵は5~6月の間の年に1回で、1個体で1億粒もの卵を放出します。卵から着底するまでの間はプラン

クトン生活を送っています。産卵は毎年行っていますが、数年に一度の大量発生により、資源量が増加します。また減耗する要因となる「寄せボッキ現象」もまた数年に一度送ります。暴風が吹きホッキガイが海岸に寄せられる現象です。

砂浜に打ち上がっても生きていますので、海に戻せばそのまま殆どが生きることができますが、全てのホッキガイを海に戻すことはできません。一般の人が砂浜に上がったホッキガイを取りに来ることがありますが、これは違反行為です。

福島県では 7.5 cm の大きさから漁獲してもよいことになっていますが、漁業者はより商品価値が高くなるよう 8.0 cm から漁獲することによって、自主管理をしています。漁獲の方法は貝桁網という特殊な底引き網で漁獲されます。船の先端と船尾で一個ずつ貝桁網を海に投網して両方の網をワイヤーで巻き取ってホッキガイを取ります。

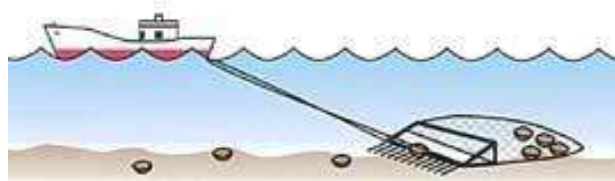


図 ホッキガイ貝桁網

ホッキガイは現在では全国津々浦々に食べられています。今から 30 年ほど前までは関東以北のみで、関西以西ではあまり食べられませんでした。回転寿司が全国的に拡大してその影響で、関西でも食べられるようになりました。回転寿司店の安いホッキガイではカナダ産のナガウバガイが使われることが多いようです。寿司の他に刺身でもおいしく食べられます。身を軽く茹でると、甘みが出て、臭みも消えます。一方生食では適度の歯応えと、磯の香りを楽しむことができます。他にはホッキご飯でも美味しくいただけます。カレーの中に肉の代わりにホッキを入れて食べても美味です。またホッキガイの天ぷらも絶品です。

バスの中でホッキガイは 1 個いくらですかという質問がありました。幸いなことに 3 日前に四倉の魚屋さんで購入したものがあり、その時の値段は 1 個 300 円でした。もちろん大きさによっても、季節によっても異なりますので、一応の目安として答えました。

バスは最後の目的地である夏井川河口の船着場へ到着しました。ここで 3 班に分かれて班ごとに船に乗って楽しみました。船から降りてから、裂きイカを餌にしてカニ釣りを行いました。傍で見るよりカニを吊り上げるのが難しそうでした。



写真 ホッキガイ

2021.5・1 No.143

発行：いわき地域環境科学会

福島工業高等専門学校

〒970-8034

いわき市平上荒川字長尾30

TEL. 0246 (46) 0837

FAX. 0246 (46) 0843

E-mail : mail@essid.org